NEWS LETTER NO.13

Tenri University Sankokan Museum

ニュースレター NO.13
天理大学附属天理参考館
発行日：2012. 9. 20
発　行：天理大学附属天理参考館
編　集：広報普及

鞠

有紋燻革韈鞠沓

第 67 企画展

会期：10月3日(水)～12月3日(月)
会場：3階企画展示室

秋になってもロンドンオリンピックの余韻がまだ残っているようです。なかでも“なでしこジャパン”の活躍は私たちを力づけてくれました。

今回の企画展でとりあげる蹴鞠は、広い意味で日本におけるサッカーのルーツと考えることができます。Jリーグ開幕前に国立競技場で蹴鞠が披露されたのをご覧になった方も多いことでしょう。蹴鞠は中国から伝来したと伝えられていますが、長い年月にわたるその歩みのなかで日本の文化伝統によって独自のスタイルを確立し、様式として東アジアには例を見ない足を使った運動に発達します。あえて「運動」としたのは、蹴鞠が「競技」と呼ぶにはそぐわないからです。サッカーはボールをゴールに入れて得点を競いますが、蹴鞠は一座のプレーヤーが鞠を地面に落とさないように協力して、できるだけ多くの回数を空中に蹴り続けることを目指します。

日本における蹴鞠の記録の初見は『日本書紀』皇極紀三年正月朔です。法興寺で催された打毬で、中大兄皇子がプレー中に落とした沓を中臣鎌足が拾って捧げたという、あの有名な二人の出会いの場面です。この時から藤原氏の隆盛が始まると言われますが、後の蹴鞠道の宗家(そうけ)もこの藤原氏の系統から出ています。

蹴鞠をプレーするコートを鞠場、プレーヤーを鞠足と呼びます。建物南側の庭を石がないようになだらかに整備し、一辺二丈二尺から三丈の正方形の鞠場を設け、その四隅に柳、桜、松、楓の樹木を植えます。これらの樹木は懸木(かかりのき)と呼ばれ、蹴鞠では重要な役割を果たすのです。枝に当たった鞠が不規則な変化を起こして鞠足のもとに戻り、それをいかにして次の鞠足につなげるかが技量を問われるポイントになるからです。鞠はやや長球型。長径約20cmで鹿皮二枚を馬皮の帯状の腰紐で袋状に縫い合わせます。強いキックには耐えられませんが、表面に膠と卵白を塗って張りと弾力を加えているので、上手に蹴れば5mぐらい上がります。基本的に8人の鞠足でプレーを行います。鞠足は最初、決められた木の下に立って鞠場中央を向き、プレーが始まると鞠の動きに伴って移動しますが、基本的に自分の木に戻ります。右足しか使えない、三足で相手に渡す、そもそも蹴鞠ができる人とは…などなどプレーだけでなく、装束や儀式にも実に細かな決まり事があります。

一体どんな決まり事があるのか、今回の展示でご紹介いたします。なお、装束、鞠、道具類のほか、日本で有数の蹴鞠関連文書を所蔵する天理図書館の協力を得て、その史料の一部も併せてご覧いただきます。

日本人はサッカーはもちろん、野球、ゴルフなど球技好きです。伝統的と言われる相撲や武道など神事や戦闘に深く関係するのではなく、足で球を操るところに面白さを求めるという意味では、蹴鞠が最も伝統的な日本のスポーツではないかとさえ思えます。近年男女とも活躍が目覚ましい日本サッカーが、実は古代からの足技の伝統を脈々と伝えていることも今回の展示でお伝えいたします。ご期待ください。

「蹴鞠図」　鞠場の様子

企画展

蹴鞠 Kemari 関連イベント

『蹴鞠実演』（観覧無料 但し展示をご覧になる場合は入館料が必要です）

日時：10 月 8 日（月・祝）　午前 11 時～、午後 1 時 30 分～
内容：蹴鞠保存会会員 10 名による実演と解説
会場：当館南側広場（雨天の場合は 1 階エントランスホールで行います）

※蹴鞠実演後に天理大学サッカー部による小学生を対象にしたリフティング指導を実施します。サッカーボールをお持ちの方はご持参下さい。(雨天の場合はリフティング指導を中止します)

『蹴鞠装束着付実演』

日時：10 月 21 日（日）　午後 1 時 30 分～
内容：蹴鞠保存会会員 2 名による装束着付実演と鞠についての説明
会場：研修室

トーク・サンコーカン「貴公子とスポーツ　―蹴鞠―」

日時：11 月 24 日（土）　午後 1 時 30 分～
講師：幡鎌　真理（当館学芸員）
会場：研修室

列品解説

日時：10 月 26 日（金）・11 月 26 日（月）　午後 1 時 30 分～
場所：3 階企画展示室

イスラエルにおける発掘調査（十）

今回はエン・ゲヴ遺跡の遺構についてその一端を紹介します。日本の遺跡と異なり、西アジアの遺跡はいずれも防御のための城壁に囲まれています。日本でも戦争が行われた弥生時代後期と中世の戦国時代だけ堀や城壁で囲まれていましたが、西アジアでは常時囲まれていました。それだけ敵が襲ってくる可能性が高かったということです。

エン・ゲヴ遺跡は南北に長いテル形の遺跡ですが、発掘調査を行った北端については、その東を画する城壁と北側はその一部が見つかりましたが、南はまだ見つかっていません。城壁は二重の厚い壁で構成されており、長さ約 40m 分を調査しました。

東壁は南北方向にありますが、北 26.5 度東に振れています。壁の厚さは外壁が約 1.4m、内壁が約 1.5m あり、その間は約 1.4m あります。間には元は土が詰めてあったと考えられます。こうした二重壁の城壁をケスメト・ウォールと呼んでいます。ケスメト・ウォールの壁と壁の間はこのエン・ゲヴ遺跡のように土が詰めてある例と、空間になっている例の 2 種類があります。空間になっている例では人間が住めるようになっている遺跡もあります。本来、城壁には厚い石作の壁を作ればいいのですが、石材や労働力が沢山必要なので、土で簡略化したのでしょう。さらに時代が新しくなると、間の空間も利用しようということになったと考えられます。

城壁（左側の 2 本）北から

こうした壁の作り方は紀元前 3 千年紀のメソポタミヤですでに始まっているのですが、イスラエルを含めたパレスチナ地域へは紀元前 11 世紀ごろの初期鉄器時代にもたらされ、流行しました。この城壁をイスラエル人が作ったのか敵対していたアラム人が作ったのか検討しているところです。エン・ゲヴに住んでいた人々はこの壁に守られていました。城壁の内側は安全地帯だったのでしょう。（山内）

NEW!

松田顧問の考古余話③　高城にみる弥生の戦い

中国後漢「中平」の紀年銘鉄刀が出土したことで知られる天理市東大寺山古墳がある丘陵を、東に辿ると大手電気会社の研究施設がありますが、その丘陵上にはかつて弥生時代の集落が営まれていました。1969 年の発掘調査で数棟の竪穴住居とともに、丘陵を要塞のように取り巻いた、弥生時代後期中頃の最大で幅 5 m もある大規模な２重の空濠の一部が見つかったのです。当時は盆地部に立地している集落でも、規模の大きな濠が何重にも掘削され、外敵から攻撃に備えていましたが、深刻な軍事的緊張時にあっては、集落を丘陵に移してまで対処しなければならなかったことを物語っています。西日本では平野や盆地部の防御集落に対して、高城とも呼べる城砦としての機能を備えた高地性集落が各地に築かれたのです。稲作経済の定着によって富の蓄積が促された弥生時代は、一方で集団間の争いが頻発した社会でもありましたが、後期中頃といえば、三国志など中国の史書にみえる「倭国大乱」の時期にほぼ該当します。大乱の内容が具体的にどのような地域で、どれ程の期間と規模であったかは不明ですが、この東大寺山遺跡の弥生人たちは集落の存亡をかけての戦いも覚悟していたのでしょう。

資料紹介

鞠水干（まりすいかん）

１頁の続きで、蹴鞠装束についてご紹介します。当初は蹴鞠のための一定の服装はなく、直衣や束帯といった絵巻物で見る雅な装束を着用していたようです。蹴鞠は平安時代末期から鎌倉時代にかけて飛躍的に様式が整備されますが、装束も同様です。白河院が指貫（さしぬき）を着るようになった、後鳥羽院の時にプレーには革韈（かわしとうず）の鴨沓（かもぐつ）を履くのが定式となったなど、蹴鞠を好んだ上皇や天皇の権威で装束も少しづつ定まっていきます。16 世紀ぐらいになると鞠水干や葛袴（くずばかま）といった名前が記録にあがってきます。本品は「桃紫片身替唐花菱亀甲丸紋金紗上（ももむらさきかたみがわりからはなびしきっこうまるもんきんしゃのかみ）」という鞠水干です。水干と呼ばれますが、かたちとしては直垂（ひたたれ）に似ています。これに指貫という足首を紐で括（くく）る袴を着用してプレーします。ジャージや短パンで走り回るのではなく、手が見えないくらい長い袖と足さばきが難しい袴で優美に、素早くプレーすることが求められたのですから、高い運動能力が必要だったと思われます。装束の規定は時代が下がるほど厳格になります。身分や経験によって勿論異なり、蹴鞠宗家の免状がなければ勝手に着用することができなくなりました。江戸時代の大名は競って入門し、最高位の免状を得ようとしたことが今に伝わる文書からもわかります。（幡鎌）

鞠水干

滑石製石枕（かっせきせいいしまくら）

崇神（すじん）天皇の御世、疫病が流行し多くの人が亡くなりました。これを憂えた天皇が神意を問うために神牀（かむとこ）(寝床) に入ったところ、大物主大神が夢に現れ、意富多多泥古（おおたたねこ）をもって自分を祭らしたなら、神の祟りもおこらず、国も平和になるだろうというお告げがありました。そこで、その通りにしたところ疫病は治まったそうです。これは古事記に載せられたお話しですが、古代の為政者（いせいしゃ）は祭りごとを行うに際しては、時にはこうした神牀に入り神の神託を得ていたのであろうと思います。枕もまた神牀には欠かせないものであったに違いありません。実際、堺市の大塚山古墳から出土したベット形のミニチュア土製品には枕が表現されています。写真は滑石製の石枕です。これは実用のものではなく葬儀に際して用いられたものです。全体を馬蹄形に成形し頭を安定させるために中央を丸く窪めています。周囲にみられる小孔は立花（りっか）と呼ばれる飾りを挿入するためのものです。（日野）

滑石製石枕　日本　出土地不明
古墳時代中期　長さ 28.0cm

周辺の見所

氷室神社

名阪国道の福住インターを降りて国道 25 号線を北上し、186 号線に入るとすぐのところに立派な社号標と灯籠の立つ神社の入口があります。この神社はかつて朝廷に献上するための氷を作っていた所と言われます。社伝によると神社は允恭（いんぎょう）天皇の時代 (5 世紀中頃) に創建され、冬になると氷で部屋を作り、そこで夏まで氷を貯蔵して、暑い夏の盛りに朝廷へお酒に入れる氷を献上していたそうです。皇室はこの氷でオンザロックでもしたのでしょうか、ことのほか喜ばれたことが記されています。この氷の部屋は「氷室」と呼ばれ、高所に位置するという地の利も得て、冷蔵庫のような役割を果たすことのできる施設だったそうです。この内容は『日本書紀』にも、氷室の作り方から皇室へ氷を献上するまでのことが事細かく記されています。

秋とはいえ、まだまだ残暑厳しき折、涼を求めてこの神社に出かけるのもいいかもしれません。（太田）

氷室神社　天理市福住町浄土

公開講演会トーク・サンコーカン

◇いずれも午後 1 時 30 分開講（申込不要）
◇会　場：研修室
◇受講料：無料（ただし入館料が必要）

第 217 回『斉明天皇の墓』
9 月 29 日 (土)　講師 / 山内　紀嗣　学芸員

斉明天皇は女帝で飛鳥に葬られました。牽牛子塚（けんごしづか）古墳がその墓であることは皆が認めるところです。その側で見つかった越塚御門（こしつかごもん）古墳は孫の太田皇女の墓です。こうした経緯を振り返り、飛鳥時代の墳墓を眺めてみましょう。

第 218 回『貴公子とスポーツ　―蹴鞠―』
11 月 24 日 (土)　講師 / 幡鎌　真理　学芸員

蹴鞠は日本のサッカーの原型と考える方も多いかと思います。なるほど手を使わない足技である点は同じですが、様式は全く異なります。『日本書紀』の中大兄皇子と中臣鎌足の出会いの場面が日本における蹴鞠の初見です。そして平安期には洗練度の高いスポーツとして完成されます。和歌と並んで貴族のたしなみとなった蹴鞠を企画展の資料とあわせてご紹介します。

第 219 回『古代アメリカ文明とヘビ』
1 月 19 日 (土)　講師 / 梅谷　昭範　学芸員

2013 年は巳年。今回は干支にちなんで、アメリカ古代文明の中でヘビがどのような存在であったか探っていこうと思います。ヘビにまつわる神話や遺物を読み解き、マヤ文明やアンデス文明の時代を生きた人々の精神世界に飛び込んでみましょう。

第 220 回『物部氏の巨大石室　塚穴山古墳』
2 月 23 日 (土)　講師 / 藤原　郁代　学芸員

天理は、古墳時代に物部氏が住み栄えた所でした。その痕跡は、布留遺跡から出土する豊富な遺物に加えて、多くの古墳として残っています。今回はその中から飛鳥の石舞台古墳に匹敵する巨大な横穴式石室を有する塚穴山古墳をご紹介します。

第 221 回『台湾先住民の現在（いま）』
3 月 16 日 (土)　講師 / 早坂　文吉　学芸員

台湾先住民の人口はおよそ 50 万人。現在 14 のエスニックグループに分類されています。パイワン、アミなどの先住民集落への現地調査と、当館で収蔵している資料を紹介していきながら台湾先住民の現在を見ていきたいと思います。

お知らせ

11 月 17 日 (土) ～ 11 月 19 日 (月) は「関西文化の日」により入館無料となります！ご来館お待ちしています。

2013 年　新春展

古代日本の鏡

会期：2013 年 1 月 5 日 (土) ～ 3 月 4 日（月）

世界の生活文化と考古美術の博物館
天　理　大　学　附　属
天理参考館
TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

住所：〒 632-8540　奈良県天理市守目堂町 250
TEL：0743-63-8414　FAX：0743-63-7721
URL：http://www.sankokan.jp/

携帯電話のサイトから情報をご覧頂けます

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分 (入館は午後 4 時まで)
入館料：大人 400 円／団体 (20 名以上)300 円
小・中学生 200 円 (学校単位の団体は無料・事前申し込みが必要)